(c)宮崎日日新聞社

県央

題字・梅田 舞子さん（大宮中2年）

食やアニメ 会話弾む

佐土原高 公立大留学生と交流

宮崎市の佐土原高（香川 健二校長、676人）の生徒と、米国から宮崎公立大に来ている留学生による交流授業が、同高であった。意見交換や缶バッジ作りを通して、互いの文化への理解を深めた。

佐土原高は同大学と高大連携協定を結んでおり、異文化について学ぼうと、昨年から交流授業を行っている。今年は留学生20人が参加して10日に開催。情報技術科生39人が迎えた。

授業では、自己紹介や、それぞれの代表生徒が学校での生活や取り組みについて発表。留学生からは「ごみ出しのルールが難しい。高校に清掃の時間があり驚いた」といった意見が上がり、高校生からは食文化や好きな日本のアニメなどについて質問が出るなど会話が弾んだ。その後、産業デザイン科生の指導で、オリジナルの缶バッジ製作も楽しんだ。

同高2年の蒲嶋心和（ここな）さん(16)は「街中で外国人を見ることが多くなった。授業は知らない文化や習慣を聞ける機会になった」と話していた。（竹内夏海）



自己紹介をしながら交流する留学生と佐土原高生ら